

## 「施策」総括票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承		44頁
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を超えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。		
関係部等	文化観光スポーツ部、教育庁		

### I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度			
	主な取組	決算見込額	推進状況
		活動概要	
1	しまくとぅば普及推進事業	96	順調
2	しまくとぅば体験事業	1,498	順調
3	しまくとぅば人材派遣事業	—	順調
4	沖縄文化活性化・創造発信支援事業	76,661	順調

○有識者等による「しまくとぅば」の効果的な普及推進の方策等について専門部会を設置。その意見等を参考に、「しまくとぅば」普及推進計画を作成中(平成25年度完了予定)。(1)

○学校教育において、授業等で活用するために派遣された地域人材への報償費等を補助することを目的に事前調査を行った結果、小中学校の約80%で、授業や学校行事、クラブ活動等において「しまくとぅば」に係る取組を行っていることが判明した。(3)

○沖縄文化の継承者の育成などに対する費用を補助する取組を実施し、FMコミュニティーラジオと連携して「しまくとぅば」の語り手の音を届け、地域独特の素材を収集する事業を採択した。(4)

様式2(施策)

II 成果指標の達成状況

(1) 成果指標 (Do)

		成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
1		しまくとぅば体験イベント等参加者数(累計)	1,982人 (23年度)	4,499人 (24年度)	16,500人	2,517人	—
	状況説明	毎年行われる「しまくとぅば語やびら大会」等のイベントも、徐々に県民に周知されてきており、参加者が増加傾向にある。					

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
しまくとぅば語やびら大会来場者数	480名 (22年度)	650名 (23年度)	700名 (24年度)	↗	—

III 内部要因の分析 (Check)

・しまくとぅばの保存・普及・継承については、全県的かつ横断的な県民運動を展開する予定であるが、「しまくとぅば」は、地域ごとに異なることから、実施にあたっては、地域ごとに異なる「しまくとぅば」の多様性を尊重し、県内各市町村と連携しながら取り組むことが必要である。

・しまくとぅばの保存・普及・継承のため、学校教育において、「しまくとぅば」に接する機会が必要だが、本県は学力向上対策が最重要課題となっており、各学校とも通常の授業時間数の確保を優先する傾向にある。

IV 外部環境の分析 (Check)

・学校や家庭において「しまくとぅば」に触れる機会が減少した結果、県民の「しまくとぅば」の使用能力は年々弱まり、若年層ほどその傾向は顕著になっていることから、今一度「しまくとぅば」の重要性を再認識し、「しまくとぅば」を普及する効果的な方法を検討・実施する必要がある。

・「しまくとぅば」は地域性があるため、その普及活動等については、地域人材の活用が望ましいが、現時点において各地域の情報がなく、人材確保が困難である。

## V 施策の推進戦略案 (Action)

- ・「しまくとぅば」普及においては、平成25年度に行う県民意識調査の結果を基に、各地域ごとの課題を分析し、県民に「しまくとぅば」を効果的、効率的に普及できる方法を有識者も交え検討する。
- ・学校教育において、通常の授業時間にも積極的に「しまくとぅば」を取り入れてもらえるよう、通常の授業時間との併存方法について県の関係課及び市町村と協議し、児童・生徒が「しまくとぅば」に触れ、学ぶ機会の設定を促進する。
- ・県民の「しまくとぅば」の効果的な普及・促進については、平成25年度に有識者の意見を基に「しまくとぅば普及推進計画」(平成25年度～平成34年度)を策定し、「しまくとぅば県民大会」の開催など、全県的かつ横断的な県民運動を展開する。
- ・普及活動に携わる人材の確保については、地域住民の協力が不可欠であることから、地域との連携体制等について検討するほか、「しまくとぅば」の普及・促進に関する取組を継続し、地域に根付く取組とすることで、人材確保につなげる。